



2025年3月期 第3四半期決算短信(IFRS)(連結)

2025年2月10日

上場会社名 ウェルネオシュガー株式会社
コード番号 2117 URL <https://www.wellneo-sugar.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 貢司

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務部担当 (氏名) 大場 健司

TEL 03 - 3668 - 1293

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	74,834	6.9	7,611	51.7	7,811	17.7	5,401	11.6	5,401	11.6	5,757	9.2
2024年3月期第3四半期	69,985	84.0	5,016	301.1	6,638	369.7	4,838	476.5	4,838	476.5	5,275	376.5

	基本的1株当たり四半期利益		希薄化後1株当たり四半期利益	
	円	銭	円	銭
2025年3月期第3四半期	164.82			
2024年3月期第3四半期	147.68			

(2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	94,051		73,432		73,432	78.1
2024年3月期	95,918		71,107		71,107	74.1

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	円	円	円	円
2024年3月期		46.00		56.00	102.00
2025年3月期		46.00			
2025年3月期(予想)				46.00	92.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的 1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	95,000	3.0	7,000	20.6	7,100	6.9	5,000	9.5	5,000	9.5	152.54

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 社 (社名) 、 除外 2 社 (社名) 日新製糖株式会社、伊藤忠製糖株式会社

(注) 日新製糖株式会社および伊藤忠製糖株式会社は、2024年10月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲から除いております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期3Q	32,800,095 株	2024年3月期	35,053,483 株
期末自己株式数	2025年3月期3Q	株	2024年3月期	2,288,574 株
期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期3Q	32,771,937 株	2024年3月期3Q	32,762,941 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有(任意)

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.5「1.経営成績等の概況 (4)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 当四半期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	6
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	8
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	10
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(作成の基礎)	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(セグメント情報)	13
(重要な後発事象)	14

[独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書]

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

第1四半期連結会計期間より、当社グループにおける事業管理区分の見直しに伴い、報告セグメントを従来の「砂糖その他食品事業」、「健康産業事業」、「倉庫事業」から、「Sugarセグメント」、「Food&Wellnessセグメント」に変更しています。このため、前年同期数値につきましては、変更後のセグメント区分に組み替えて比較分析を行っています。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済につきましては、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要に支えられ、景気は緩やかな回復基調を維持しました。一方で、円安に起因する物価上昇の影響や不安定な国際情勢などを受け、依然として先行きは不透明な状況にあります。

当第3四半期連結累計期間の業績は、コスト上昇に対する売価への反映を進めたこと等により、売上収益は74,834百万円（前年同期比6.9%増）、営業利益は7,611百万円（同51.7%増）となりました。前年同期において一過性の受取配当金を計上していた反動で金融収益が減少し、税引前四半期利益は7,811百万円（同17.7%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は5,401百万円（同11.6%増）となりました。

セグメントの概況は以下のとおりです。なお、各セグメント利益は全社費用等898百万円を含んでいません。

[Sugarセグメント]

海外原糖市場につきましては、1ポンド当たり22セント台半ばで始まり、主要生産国の増産見通しなどから、8月下旬には今期最安値となる17セント台半ばまで下落しました。その後、ブラジルの干ばつによる減産懸念から、9月後半には今期最高値となる23セント台後半まで急騰しました。10月以降は対ドルでレアル安が進行したことから軟調な推移が続き、19セント台前半で当第3四半期連結累計期間を終了しました。

海外原糖市況（ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限））

	日付	セント／ポンド	円／kg	為替（円／ドル）
始値	2024年4月1日	22.65	76.11	152.43
高値	2024年9月26日	23.71	76.11	145.61
安値	2024年8月20日	17.52	56.79	147.03
終値	2024年12月31日	19.26	67.59	159.18

（注）1ポンドは約0.4536kgとして換算し、為替は当日の三菱UFJ銀行直物為替公表TTSによっています。

国内精糖市況（日本経済新聞掲載、東京）につきましては、前期末から変わらず上白糖1kg当たり249円～251円で当第3四半期連結累計期間を終了しました。

このような状況のもと、業務用製品の販売量は、人流の増加により製菓、製パン向けで回復がみられたこと等により前年同期を上回りました。家庭用製品の販売量は、当社独自製品の「きび砂糖」の出荷は好調に推移しましたが、家庭内調理機会の減少により前年同期を下回りました。利益面においては、コスト上昇に対する売価への反映を進めたこと、および有利な条件での原料調達を実行できたことにより、大幅な増益となりました。

以上の結果、Sugarセグメント合計の売上収益は64,664百万円（前年同期比7.6%増）、セグメント利益は7,971百万円（同63.0%増）となりました。

[Food&Wellnessセグメント]

Food&Wellnessセグメントにおきましては、主にフードサイエンス事業とフィットネス事業により、幅広い場面で活用される多種多様な機能性素材・サービスを提供しています。

フードサイエンス事業につきましては、当社独自製品の「沖縄・奄美のきびオリゴ」は、腸内環境改善効果への関心の高まりに加え、10月のリニューアル新発売、テレビCM等の販促施策、採用店舗拡大に向けた営業活動等から好調な出荷を継続しました。ツキオカフィルム製薬㈱では、箔押事業における受注増があったものの、フィルム事業における好採算商品の減少等により減収減益となりました。

フィットネス事業につきましては、積極的な広告宣伝活動および子ども向けスクール事業の受入体制強化によって、成人・子ども向けスクールともに会員数は緩やかに回復しました。引き続き事業の効率化を進めているものの、不採算店舗の退店影響や前年同期にリース負債の見直しによる再測定益を計上していたことから減収減益となりました。

倉庫事業につきましては、港湾運送において輸入合板の取扱量が減少したこと等から減収減益となりました。

以上の結果、Food&Wellnessセグメント合計の売上収益は10,170百万円（前年同期比2.7%増）、セグメント利益は538百万円（同37.5%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は35,855百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,071百万円減少しました。これは主に営業債権及びその他の債権が607百万円増加した一方で、棚卸資産が2,126百万円、現金及び現金同等物が415百万円それぞれ減少したことによるものです。非流動資産は58,195百万円となり、前連結会計年度末に比べ204百万円増加しました。これは主に使用权資産が395百万円、その他の金融資産が144百万円それぞれ減少した一方で、有形固定資産が535百万円、退職給付に係る資産が137百万円、持分法で会計処理されている投資が122百万円それぞれ増加したことによるものです。

この結果、資産合計は94,051百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,866百万円減少しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は17,120百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,726百万円減少しました。これは主に営業債務及びその他の債務が1,096百万円、借入金が1,090百万円、未払法人所得税等が835百万円それぞれ減少したことによるものです。非流動負債は3,497百万円となり、前連結会計年度末に比べ464百万円減少しました。これは主にリース負債が456百万円減少したことによるものです。

この結果、負債合計は20,618百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,191百万円減少しました。

(資本)

当第3四半期連結会計期間末における資本合計は73,432百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,324百万円増加しました。これは主に親会社の所有者に帰属する四半期利益5,401百万円および剰余金の配当による減少3,342百万円によるものです。

また、当社は、2024年12月17日開催の取締役会決議に基づき、2024年12月26日付で自己株式の消却を行いました。当該消却の影響として、自己株式が3,473百万円減少し、資本剰余金についても3,473百万円減少しています。

この結果、親会社所有者帰属持分比率は78.1%（前連結会計年度末比4.0ポイント増）となりました。

(3) 当四半期のキャッシュ・フローの概況

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より415百万円減少し、12,093百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、6,892百万円の収入（前年同期は1,663百万円の収入）となりました。

主なものは、税引前四半期利益7,811百万円、減価償却費及び償却費1,757百万円、持分法による投資利益△140百万円、法人所得税の支払額△3,074百万円、ならびに棚卸資産の減少、営業債権及びその他の債権の増加、営業債務及びその他の債務の減少による897百万円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、2,235百万円の支出（前年同期は1,062百万円の支出）となりました。

主なものは、有形固定資産及び無形資産の取得による支出△2,331百万円、ならびに投資の売却、償還による収入204百万円です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、5,072百万円の支出（前年同期は3,377百万円の支出）となりました。

主なものは、短期借入金の純減額による支出△1,090百万円、リース負債の返済による支出△646百万円、配当金の支払額△3,336百万円によるものです。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第4四半期以降のわが国の経済は、消費の持ち直しが持続し、緩やかな景気回復が続く一方で、不安定な国際情勢や物価上昇による消費購買意欲の低下が懸念されるなど、引き続き予断を許さない状況が続く見通しです。

このような状況の中、当社グループは中期経営計画「WELLNEO Vision 2027」の1年目として、当社を取り巻く様々なステークホルダーの“Well-being”の実現に向けた取り組みを進めております。2024年10月1日に実施した日新製糖㈱および伊藤忠製糖㈱の吸収合併による一体的な効率経営のもと、以下各セグメントにおける成長施策を着実に進めてまいります。

Sugarセグメントにおきましては、主要生産国の天候懸念や地政学的リスク等により先行き不透明であり、エネルギーコストの高止まりや円安の影響を受け、業界環境が依然として厳しい状況ですが、当社は、生活必需品である砂糖の安定的な提供により社会的責任を果たしていくなかで、有利な条件での原料調達やコスト上昇に対する売価への反映を進め、採算を重視した経営に努めるとともに、経営統合のシナジー効果を早期に発揮することで、業績の向上を目指してまいります。

Food&Wellnessセグメントにおきましては、健康増進による人々の生活の質の向上に貢献するべく、多種多様な機能性素材・サービスを提供してまいります。

フードサイエンス事業では、「沖縄・奄美のきびオリゴ」をはじめとした腸内環境の改善に資する機能性甘味料素材の販売を拡大してまいります。また、オーラルケア分野での効果が期待され、製造方法開発と機能研究が日本応用糖質学会の「技術開発賞」を受賞した、当社独自素材である「サイクロデキストラン」の増産に向けた設備投資を進めてまいります。さらに、産学連携によるプレバイオティクス素材を活用した技術開発や最先端の腸内環境研究に知見を有する株式会社メタジェンとの取り組み等を通して、腸内・口腔フローラ環境を整えるフローラデザイン素材を軸とした様々な領域への事業展開の基盤づくりを引き続き推し進めてまいります。加えて、ツルヤ化成工業㈱の食品添加物や、ツキオカフィルム製薬㈱の「可食フィルム」の事業展開、両社との連携による商品開発力の強化など、グループ会社の資産と知見を最大限活用してまいります。

フィットネス事業では、会員数は徐々に回復傾向にあるものの、競合サービスの台頭など多様化が進み、経営環境は依然として厳しい状況にあります。ニーズにあわせた健康・からだづくりの場の提供を行い、集客促進のための広告宣伝も実施し、総合型店舗における子ども向けスクール事業の強化と採算を重視した経営に努め、早期の業績回復を目指してまいります。

以上の結果、2024年11月7日の「2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、当社は2025年10月1日を目標に、当社を存続会社として、当社の連結子会社である第一糖業㈱を吸収合併（以下「本合併」といいます。）する基本方針を2024年5月24日開催の取締役会において決議いたしました。本合併に向けた必要な手続きの進捗に応じて、公表すべき事項が生じた場合には速やかに公表いたします。

また、当社は2025年2月6日開催の取締役会において、東洋精糖株式会社の普通株式を金融商品取引法に基づく公開買付けにより取得することを決議しております。詳細は、2025年2月6日公表の「東洋精糖株式会社（証券コード2107）に対する公開買付けの開始に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	12,509	12,093
営業債権及びその他の債権	8,237	8,844
その他の金融資産	71	76
棚卸資産	16,375	14,249
その他の流動資産	733	591
流動資産合計	37,927	35,855
非流動資産		
有形固定資産	18,115	18,650
使用権資産	2,120	1,724
のれん	14,280	14,280
無形資産	242	204
持分法で会計処理されている投資	14,944	15,067
その他の金融資産	6,792	6,647
退職給付に係る資産	—	137
繰延税金資産	129	128
営業債権及びその他の債権	15	19
その他の非流動資産	1,350	1,334
非流動資産合計	57,990	58,195
資産合計	95,918	94,051

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
借入金	8,000	6,910
営業債務及びその他の債務	6,898	5,801
リース負債	880	742
その他の金融負債	77	252
未払法人所得税等	1,781	946
引当金	218	160
その他の流動負債	2,991	2,306
流動負債合計	20,847	17,120
非流動負債		
営業債務及びその他の債務	18	34
リース負債	1,643	1,186
その他の金融負債	98	96
退職給付に係る負債	394	304
引当金	430	433
繰延税金負債	1,317	1,383
その他の非流動負債	58	58
非流動負債合計	3,962	3,497
負債合計	24,810	20,618
資本		
資本金	7,000	7,000
資本剰余金	34,690	31,245
自己株式	△3,528	—
その他の資本の構成要素	1,932	2,010
利益剰余金	31,012	33,177
親会社の所有者に帰属する持分合計	71,107	73,432
資本合計	71,107	73,432
負債及び資本合計	95,918	94,051

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書
(要約四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上収益	69,985	74,834
売上原価	57,535	59,142
売上総利益	12,449	15,692
販売費及び一般管理費	7,649	8,151
その他の収益	301	136
その他の費用	86	66
営業利益	5,016	7,611
金融収益	1,414	122
金融費用	64	61
持分法による投資利益	273	140
税引前四半期利益	6,638	7,811
法人所得税費用	1,800	2,410
四半期利益	4,838	5,401
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	4,838	5,401
非支配持分	—	—
四半期利益	4,838	5,401
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	147.68	164.82

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期利益	4,838	5,401
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値 で測定する金融資産	123	141
確定給付制度の再測定	—	29
持分法適用会社におけるその他の包括 利益に対する持分	3	6
純損益に振り替えられることのない 項目合計	127	177
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジ	309	179
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	309	179
税引後その他の包括利益	436	356
四半期包括利益	5,275	5,757
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	5,275	5,757
非支配持分	—	—
四半期包括利益	5,275	5,757

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分				
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
				キャッシュ・フロー・ヘッジ	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産
2023年4月1日時点の残高	7,000	34,687	△3,534	△12	1,559
四半期利益	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	309	127
四半期包括利益合計	—	—	—	309	127
自己株式の取得	—	—	△0	—	—
自己株式の処分	—	—	—	—	—
自己株式の消却	—	—	—	—	—
配当金	—	—	—	—	—
株式報酬取引	—	0	6	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	—	△9
非金融資産への振替	—	—	—	△193	—
所有者との取引額合計	—	0	6	△193	△9
2023年12月31日時点の残高	7,000	34,688	△3,528	102	1,677

	親会社の所有者に帰属する持分				合計
	その他の資本の構成要素		利益剰余金	合計	
	確定給付制度の再測定	合計			
2023年4月1日時点の残高	—	1,546	28,563	68,264	68,264
四半期利益	—	—	4,838	4,838	4,838
その他の包括利益	—	436	—	436	436
四半期包括利益合計	—	436	4,838	5,275	5,275
自己株式の取得	—	—	—	△0	△0
自己株式の処分	—	—	—	—	—
自己株式の消却	—	—	—	—	—
配当金	—	—	△2,719	△2,719	△2,719
株式報酬取引	—	—	—	7	7
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	△9	9	—	—
非金融資産への振替	—	△193	—	△193	△193
所有者との取引額合計	—	△203	△2,709	△2,906	△2,906
2023年12月31日時点の残高	—	1,780	30,692	70,633	70,633

当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分				
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
				キャッシュ・フロー・ヘッジ	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産
2024年4月1日時点の残高	7,000	34,690	△3,528	155	1,776
四半期利益	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	179	147
四半期包括利益合計	—	—	—	179	147
自己株式の取得	—	—	△0	—	—
自己株式の処分	—	22	54	—	—
自己株式の消却	—	△3,473	3,473	—	—
配当金	—	—	—	—	—
株式報酬取引	—	6	—	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	—	△75
非金融資産への振替	—	—	—	△173	—
所有者との取引額合計	—	△3,445	3,528	△173	△75
2024年12月31日時点の残高	7,000	31,245	—	161	1,848

	親会社の所有者に帰属する持分				
	その他の資本の構成要素		利益剰余金	合計	合計
	確定給付制度の再測定	合計			
2024年4月1日時点の残高	—	1,932	31,012	71,107	71,107
四半期利益	—	—	5,401	5,401	5,401
その他の包括利益	29	356	—	356	356
四半期包括利益合計	29	356	5,401	5,757	5,757
自己株式の取得	—	—	—	△0	△0
自己株式の処分	—	—	—	76	76
自己株式の消却	—	—	—	—	—
配当金	—	—	△3,342	△3,342	△3,342
株式報酬取引	—	—	—	6	6
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	△29	△104	104	—	—
非金融資産への振替	—	△173	—	△173	△173
所有者との取引額合計	△29	△278	△3,237	△3,433	△3,433
2024年12月31日時点の残高	—	2,010	33,177	73,432	73,432

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	6,638	7,811
減価償却費及び償却費	1,841	1,757
減損損失	36	—
金融収益	△1,414	△122
金融費用	64	61
持分法による投資損益 (△は益)	△273	△140
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△2,770	2,126
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△1,794	△661
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	△1,241	△566
その他	119	△359
小計	1,207	9,907
利息及び配当金の受取額	1,410	118
利息の支払額	△64	△59
法人所得税の支払額	△890	△3,074
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,663	6,892
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	1,000	—
有形固定資産及び無形資産の取得による支出	△1,554	△2,331
有形固定資産の除却による支出	△8	△38
有形固定資産の売却による収入	—	5
投資の取得による支出	△21	△21
投資の売却、償還による収入	33	204
持分法で会計処理されている投資の取得による支出	△527	—
その他	16	△54
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,062	△2,235
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△1,090
リース負債の返済による支出	△660	△646
配当金の支払額	△2,716	△3,336
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,377	△5,072
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,776	△415
現金及び現金同等物の期首残高	11,263	12,509
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,487	12,093

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(作成の基礎)

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、同基準第5条第5項に定める記載の省略を適用）に準拠して作成しており、国際会計基準第34号「期中財務報告」で求められる開示項目の一部を省略しています。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループはサービス内容・経済的特徴を考慮したうえで事業セグメントを集約し、「Sugarセグメント」、「Food&Wellnessセグメント」を報告セグメントとしています。

「Sugarセグメント」においては、精製糖事業として主に砂糖の製造・販売を行っています。また、「Food&Wellnessセグメント」においては、主にフードサイエンス事業とフィットネス事業があり、フードサイエンス事業としては主にその他甘味料や機能性素材の製造・販売を行っており、フィットネス事業としてはフィットネスクラブの運営を行っています。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループにおける事業管理区分の見直しに伴い、報告セグメントを従来の「砂糖その他食品事業」、「健康産業事業」、「倉庫事業」から、「Sugarセグメント」、「Food&Wellnessセグメント」に変更しています。

このため、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを記載しています。

(3) 報告セグメントに関する情報

当社グループの報告セグメントによる収益および業績は以下のとおりです。

セグメント間の内部収益および振替高は市場価格を勘案して決定しています。

前第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

	報告セグメント			調整額 (注) 2	連結
	Sugar	Food& Wellness	計		
	百万円	百万円	百万円		
売上収益					
外部収益	60,084	9,900	69,985	—	69,985
セグメント間収益	34	89	123	△123	—
合計	60,118	9,990	70,108	△123	69,985
セグメント利益 又は損失(△) (注) 1	4,889	861	5,750	△734	5,016
金融収益	—	—	—	—	1,414
金融費用	—	—	—	—	64
持分法による投資利益	—	—	—	—	273
税引前四半期利益	—	—	—	—	6,638

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、要約四半期連結損益計算書の営業利益と一致しています。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用等です。

当第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

	報告セグメント			調整額 (注) 2	連結
	Sugar	Food& Wellness	計		
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上収益					
外部収益	64,664	10,170	74,834	—	74,834
セグメント間収益	18	89	107	△107	—
合計	64,682	10,259	74,942	△107	74,834
セグメント利益					
又は損失(△) (注) 1	7,971	538	8,509	△898	7,611
金融収益	—	—	—	—	122
金融費用	—	—	—	—	61
持分法による投資利益	—	—	—	—	140
税引前四半期利益	—	—	—	—	7,811

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、要約四半期連結損益計算書の営業利益と一致しています。
2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用等です。

(重要な後発事象)

(東洋精糖株式会社に対する公開買付けの開始)

当社は、2025年2月6日開催の取締役会において、東洋精糖株式会社（証券コード：2107、株式会社東京証券取引所スタンダード市場）の普通株式を金融商品取引法（昭和23年法律第25号。その後の改正を含みます。）に基づく公開買付け（以下「本公開買付け」といいます。）により取得することを決議いたしました。

1. 本公開買付けの目的

我が国の砂糖産業を取り巻く環境においては、人口減少、低甘味・低カロリー志向による砂糖代替品の台頭、他国との経済連携協定等による競争激化、近年の原料価格高騰等を背景に、不確実性が高まっております。そうした不確実性の高まりの中で、事業環境の変化への柔軟な対応、事業基盤の更なる強化及び経営効率化は特に重要な経営課題となっております。また、機能性素材を含むフードサイエンス事業についても、成長市場ながら競争環境は激化していくことが考えられることから、十分なキャッシュを伴う研究開発、マーケティング施策、成長投資等による差別化が重要になってくるものと認識しております。

このような状況の中、製糖事業の同業である東洋精糖株式会社との連携により、砂糖事業においては、原料の共同調達、製造ノウハウの活用、両社の生産拠点のうち最適な拠点からの物流・販売の実現など、各側面において最適なサプライチェーンを構築することで、サステナブルかつ競争力のある供給体制が構築できると考えております。また、機能性素材事業においても、研究開発段階から両社が情報共有することで、製品開発のスピードを加速させ、多様な機能性素材の創出につながると考えており、両社にとっての収益拡大機会の獲得につながると見込んでおります。

なお、東洋精糖株式会社との強い連携の下で競争力を高め、強い収益基盤を構築し、中長期的な企業価値の向上を達成していくためには、外部環境の変化に対応する柔軟かつ適切で迅速な意思決定を行っていくことが重要であると考えております。さらには株主、経営陣及び従業員が一体となって会社の永続的な成長及び雇用安定のために各種施策を推進していくことが必要であると判断し、上場維持を前提とした資本業務提携ではなく、東洋精糖株式会社を当社の完全子会社とすることを目的とする取引の一環として、本公開買付けを実施することを決議いたしました。

2. 対象者の概要

- ① 名称 東洋精糖株式会社
- ② 所在地 東京都中央区日本橋小網町18番20号
- ③ 代表者の役職・氏名 代表取締役社長 社長執行役員 三木智之
- ④ 事業内容 砂糖の製造及び販売、機能素材の製造及び販売
- ⑤ 資本金 2,904,000千円
- ⑥ 設立年月日 1949年11月29日

3. 本公開買付けの概要

① 買付け等の期間

2025年2月7日（金）から2025年3月25日（火）まで（30営業日）

② 買付け等の価格

普通株式1株につき、金2,080円

③ 買付予定の株券等の数

買付予定数 5,452,647株

買付予定数の下限 2,720,900株

買付予定数の上限 一株

（注）応募株券等の総数が買付予定数の下限（2,720,900株）に満たない場合は、応募株券等の全部の買付け等を行いません。応募株券等の総数が買付予定数の下限以上の場合は、応募株券等の全部の買付け等を行います。

④ 買付代金

11,341,505千円

（注）買付代金は、本公開買付けにおける買付予定数（5,452,647株）に本公開買付価格（2,080円）を乗じた金額です。

⑤ 決済の開始日

2025年3月31日（月）

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年2月10日

ウエルネオシュガー株式会社

取締役会 御中

東 陽 監 査 法 人

東京事務所

指 定 社 員 公認会計士 井澤 浩昭
業 務 執 行 社 員指 定 社 員 公認会計士 大島 充史
業 務 執 行 社 員指 定 社 員 公認会計士 重松 あき子
業 務 執 行 社 員

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているウエルネオシュガー株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2024年10月1日から2024年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2024年4月1日から2024年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第5条第5項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

強調事項

重要な後発事象の注記に記載されているとおり、会社は2025年2月6日開催の取締役会において、東洋精糖株式会社を完全子会社化することを目的として、同社の株式を公開買付けにより取得することを決議した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第5条第5項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第5条第5項に定める記載の省略が適用されている。）に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第5条第5項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第5条第2項（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第5条第5項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・要約四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信提出会社）が別途保管しています。
2. XBR Lデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。